

幼児の運動遊びに関する研究

— 運動遊びにおける基本的な運動の経験についての調査より —

小 黒 美智子

A Study on Exercise in Children's Play:
Research on Basic Movements in Children's Play
by
Michiko Oguro

はじめに

保母養成研究年報2・3合併号から13号には、遊びの実態調査から幼児期における運動が発育発達に及ぼす効果や必要性などを明らかにした研究は、数多く発表されてきた。これらの研究により、幼児期には多様な動きを遊びをとおして数多く経験することが、その後の運動能力や発育発達に及ぼす影響が大であり、「幼児期に基本的な動作を十分獲得できる、環境や働きかけが強く望まれる」ことが明らかになっている。¹⁾²⁾³⁾⁴⁾

核家族、少子化、情報化、機械化などを社会的背景に、子どもの遊びの変容が指摘されて久しい。テレビ視聴やファミコンによる遊びの普及などが、子どもの遊びに質的変容をもたらし、「児童公園で遊ぶ子どもたちの姿は20年前の半分になっており、公園での滞在時間も半分になっている。風の子であるはずの子どもたちが、戸外遊びの生活の中でかつての活動的な生活ができなくなっている。⁵⁾」「家庭において全身を動かす遊びが少なくなっている。⁶⁾」などと指摘されている。家庭での遊びが変容してくると、幼児の遊びに対する期待は、幼児が、一日の大半を過ごす保育園（所）、幼稚園での遊びに負うところが大きくなる。

本研究は、園における幼児の遊びの経験について傾向を知ること。および、遊びにおける運動要素に着目し、幼児は園における様々な運動あそびを通して、基本的な運動をどの程度経験し、どの様な運動要素が不足しているのかを把握する。さらに、子どもの主体的な遊びを重視する保育形態の中で、保育者の運動遊びの援助に関する意識を把握することなどを目的にしている。

ただし、本稿においては、調査結果報告第一報とし、遊びの経験について傾向を知ること。および、基本的な運動の経験と不足についてのみまとめた。

研究の方法

1. 被 調 査 者

新潟県内の保育園（所）、幼稚園各100園のクラス担任（各園3名）600名を無作為抽出し、
新潟青陵女子短期大学研究報告 第27号（1997）

415名より有効回答が得られた。(回収率69.2%)

2. 調 査 期 間

1996年10月23日～11月7日

3. 調 査 方 法

本研究は質問紙法による。質問紙は郵送により配布回収を実施した。保育園(所)、幼稚園における園児の運動遊びの実施傾向および基本的な運動経験については、クラス担任に1996年4月から9月の6ヵ月間のクラスの子どもたちの遊びの様子を、園の観察記録、記憶などをもとに振り返ってもらい、担任の実感頻度として5段階の回答を得た。

調査者による観察法や、予め観察記録用紙を配布して保育者による観察法が実施できれば、精度の高い調査結果が得られると考えられるが、調査者は長期に渡って園児の活動を観察することは物理的に困難であり、被調査者には多大な負担をかけることになるため実際には困難である。したがって、保育者の経験と実績を手がかりに実感頻度として回答してもらった。

4. 質 問 紙 と 内 容

本調査で用いられた質問紙は、Q I : Q. 1～7の園の所在地、種別、設置者、園児数、受け持ちクラス、被調査者の年齢、縦割り保育の実施などの被調査者の属性、および、Q II : Q. 8～33の園児の遊びの経験についての保育者の実感頻度、Q III : Q. 34～81の基本的な運動経験についての保育者の実感頻度と不足感、Q. 82～107の運動遊びに関する保育者の意識についての設問によるものである。

Q IIの園児の遊びの経験についての設問は、園で日常的に行われていると思われる遊びの固有名詞を挙げ、同系列の遊びをまとめてQ. 8～33の26の遊びの種類に分類して示した。

Q IIIの基本的な運動経験についての保育者の実感頻度と不足感に関する設問は、幼児が経験する個々の遊びを通して、幼児期に人間の基本的な運動をどの程度経験しているのか、また基本的な運動の中で、幼児の日常的な遊びでは余り経験していない運動はあるのか、保育者はどのような基本的な運動が不足していると感じているのかなどを調査の目的としている。

Q IIIの園児の運動遊びに関する保育者の意識についての設問は、保育者は園児の運動遊びの現状に満足しているのか、また園児の遊びについて意図的な援助が必要な遊びはどのようなものがあるのか、遊びの環境は十分であるのかなどを調査の目的としている。

質問紙のQ II、Q IIIは、「非常に～する」5点、「やや～する」4点、「どちらともいえない」3点、「やや～しない」2点、「全く～しない」1点の5段階評定として、平均値は、1～5点に分布し、5点に近いほどその項目を肯定する傾向が強いことを示している。

5. 結 果 の 処 理

結果の処理は多変量解析ソフトHALBAUによりデーター解析を行った。

結 果 と 考 察

1. 日常的に行われている遊びの分類

質問紙の各設問に対し度数、平均値、標準偏差の算出、および、Q IIの26種の遊びについて、Q IIIの基本的な運動経験についての保育者の実感頻度と不足感は、Q Iの属性による傾向把握を容易にするため因子分析(バリマックス回転)を実施した。

園で年間を通して日常的に行われている遊びの数は数十種類に及び、同じ用具を使用しても遊び方は多様である。質問紙のQ IIは、遊びを大きくくくって26に分類して設問したが、結果の分析にあたっては個々の遊びを項目ごとに分析するのではなく、遊びの特性により共通性のあるも

のをさらに大きくまとめた因子によって分析することを試みた。そこで質問紙のQ IIの26項目に示した遊びについて因子分析を施し6因子を抽出した。ただし、リズム運動遊び、ヒーローごっこ、テレビ視聴の三項目は、遊びの特徴からみて6因子には入れないで独立した尺度として取り出して扱う方が望ましいと判断し*で示した(表1)。

表1 運動遊びの経験評価(因子分析:回転後の因子負荷量(直交回転)バリマックス法)

因子名	No.	変数名(質問項目)	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6
手具・用具を使った遊びの経験	Q11	巧技台、鉄棒、マット、跳び箱、平均台などの大型遊具	.5878	-.0609	.3510	-.2035	-.1322	-.0138
	Q13	なわ、輪、ボール、棒、布、フリスビーなどの手具を使った遊び	.7053	.2158	-.0645	-.0682	-.2126	-.1362
	Q14	縄跳び(長縄跳び、短縄跳び)	.7665	.0515	.1791	.1013	.0113	-.0997
	Q18	ドッジボールや野球、サッカーごっこなどのボールゲーム	.5691	.1007	.3539	.1713	-.0.912	-.2639
非運動遊びの経験	Q26	ままごと、人形遊び	-.2558	.5085	-.1193	-.4835	.0293	.0158
	Q27	絵本を見る	.0931	.5803	.0927	-.2779	-.0971	.0355
	Q28	字や絵をかく遊び	.2964	.6695	.0883	.0568	.0695	.0285
	Q29	折り紙、工作などの遊び	.3167	.5315	.2788	-.1881	-.0178	.0921
	Q30	積み木、ブロック、乗り物遊びなど	.1448	.5284	-.3015	-.3089	-.0346	.0308
	Q31	楽器や歌遊び	-.0053	.5596	.3278	.0253	.0949	-.2442
手具・用具を使わない遊びの経験	Q16	かけっこ、リレー	.1430	.2606	.4772	.1115	-.5411	-.0237
	Q17	鬼ごっこ、かくれんぼ	.2559	.1314	.7277	-.0694	-.0309	-.0690
	Q19	相撲	.3075	.0476	.3627	.0172	.0331	-.3578
	Q24	はないちもんめ、だるまさんがころんだなどの伝承遊び	.2472	.1285	.6006	-.1745	-.0200	-.1814
固定・大型遊具の経験	Q8	固定遊具を使った遊び	.2132	.0553	.3495	-.5530	.0136	.0721
	Q9	砂遊び	.0035	.0527	-.0557	-.6822	-.1534	-.1260
	Q12	大型積み木、タイヤ、段ボール箱などの大型用具を使った遊び	.4315	-.0363	.1198	-.4892	-.2205	.0630
自然を利用した遊び	Q10	水遊び(プール、川、海)	.1181	-.0522	-.0620	-.1237	-.6719	.1398
	Q15	散歩	.0697	-.0423	-.0174	-.0312	-.8078	-.1029
	Q32	虫取り、花摘み、魚とりなど	.1937	.1195	.2111	-.3374	-.3871	-.0498
乗り物遊びの経験	Q21	自転車(一、二、三輪車)、スクーター、幼児車などの乗り物に自分が乗って遊ぶ	-.0479	.1160	.0645	-.3431	-.1379	-.3640
	Q22	ローラースケート、バランスボードなど	.1331	.0310	-.0086	.0299	-.0329	-.7883
	Q23	竹馬、三角馬などの伝承あそび	.1326	-.1126	.1629	-.1658	.0165	-.6591
*リズム運動遊びの経験	Q20	リズム体操、ダンス、フォークダンスなどのリズム運動	-.1951	.4929	.3484	-.1062	-.2965	-.0192
*ヒーローごっこの経験	Q25	ウルトラマンごっこ、アンパンマンごっこなどのヒーローごっこあそび	-.1439	.2043	.0597	-.6887	.0480	-.0593
*TV視聴の経験	Q33	テレビの幼児番組視聴	.0447	.1918	-.4663	-.0668	-.2297	-.3041
因子負荷量2乗和			2.6656	2.4600	2.4024	2.3560	1.8816	1.6783
寄与率(%)			10.2522	9.4616	9.2401	9.0616	7.2368	6.4552
累積寄与率(%)			10.2522	9.7138	28.9539	38.0156	45.2523	51.7075

第一因子は、「11. 巧技台、鉄棒、マット、跳び箱、平均台など大型遊具」、「13. なわ、輪、ボール、棒、布、フリスビーなどの手具を使った遊び」「14. なわとび（長なわ跳び、短なわ跳び）」、「18. ドッジボールや野球、サッカーごっこなどのボールゲーム」などの4項目が0.40以上の因子負荷量を示した。これらを「手具・用具を使った遊びの経験」とした。

第二因子は、「26. ままごと、人形遊び」、「27. 絵本をみる」、「28. 字や絵をかく」、「29. 折り紙、工作などの遊び」、「30. 積み木、ブロック、乗り物遊び」、「31. 楽器や歌遊び」、の六項目が0.50以上の因子負荷量を示した。これらを「非運動遊びの経験」と命名した。

第三因子は、「16. かけっこ、リレー」、「17. 鬼ごっこ、かくれんぼ」、「19. 相撲」、「24. はいちもんめ、だるまさんがころんだ」などの4項目が含まれ相撲を除いて他の三項目が0.4以上の因子負荷量を示した。これらを「手具・用具を使わない遊びの経験」と命名した。

第四因子には「8. 固定遊具を使った遊び」、「9. 砂遊び」、「12. 大型積み木、タイヤ、段ボール箱などの大型遊具を使った遊び」が0.40以上の因子負荷量を示した。これらを「固定・大型遊具の経験」と命名した。

第五の因子は、「10. 水遊び（プール、川、海）」、「15. 散歩」、「32. 虫とり、花摘み、魚とり」の三項目がふくまれ、10. 15. は0.60以上の高い因子負荷量を示した。32. は0.39とやや低くなっているが少数第二位以下四捨五入すれば0.40になることからここに含めた。

第六の因子は、「21. 自転車（一輪車、二輪車、三輪車）、スクーター、幼児車などの乗り物に自分が乗って遊ぶ」、「22. ローラースケート、バランスボードなど」、「23. 竹馬、三角馬などの伝承遊び」の三項目が含まれた。22. 23. の二項目は0.60以上の高い値の因子負荷量を示した。21は0.36とやや低かったが乗り物という共通性からこの因子に含めた。これらの因子を「乗り物遊び経験」と命名した。

その他上記の6因子とは別に、「20. リズム体操、ダンス、フォークダンスなどのリズム運動」の一項目だけをとりだして、「リズム運動遊びの経験」の尺度とした。

また、「25. ウルトラマンごっこ、アンパンマンごっこなどのヒーローごっこ遊び」の項目は、「ヒーローごっこの経験」とした。

さらに、「33. テレビの幼児番組視聴」の項目は、「テレビ視聴経験」の尺度とした。

以上のように、抽出した6因子にその他の3項目を加え、園児の遊びを9つの下位尺度に分けて分析した。

9つの尺度についての平均値、標準偏差は表2のとおりであった。平均値が4.00以上の遊びはプールや川、海などでの水遊び、散歩、虫とり、花摘み、魚とりなど「自然を利用した遊びの経験」が4.10と最も高く、次いでままごと・人形遊び、絵本をみる、字や絵をかく、折り紙・工作などの遊び、積み木・ブロック・乗り物のおもちゃを使った遊び、楽器や歌遊びなどの「非運動遊びの経験」が4.06と肯定的な結果を示している。「固定・大型遊具による遊びの経験」、「リズム運動遊びの経験」、「ヒーローごっこ遊びの経験」も3.50以上を示し、よく遊んでいる遊びであることがわかった。一応肯定的ではあるが、他の肯定的な尺度に比較してやや低くなっているのは、かけっこ・リレー、鬼ごっこ・かくれんぼ、相撲、はいちもんめ・だるまさんがころんだなどの伝承遊びなど「手具・用具を使わない遊びの経験」はやや低くなっている。

平均値が3.00未満の否定的な結果が得られた遊びは、巧技台・鉄棒・マット・跳び箱・平均台などの大型遊具を使った遊び、なわ・輪・ボール・棒・布・フリスビーなどをつかった遊び、縄跳び（長縄、短縄）、ドッジボールや野球、サッカーごっこなどのボールゲームなど「手具・用具を使った遊びの経験」、および、「テレビ視聴経験」や自転車・スクーター・幼児車などの乗り物に幼児自身が乗って遊ぶ乗り物遊び、ローラースケート・バランスボードなどバランスをとっ

て遊ぶ遊び、竹馬・三角馬などの伝承的なバランス遊びなどの「乗り物遊びの経験」などであった。得に「乗り物遊びの経験」は平均値1.60と低く、園ではほとんど経験しない遊びとってよい。

2. 園児の遊びと環境との関係

Q IIにおいて9つの下位尺度に分けた遊びの経験について、Q Iの属性による傾向を把握するために母平均値の差の検定、一元配置分散分析を行った。すなわち保育者からみた園児の遊びの経験頻度と、地域、種別、設置者、規模、年齢段階、保育者の年齢、縦割り保育の実施頻度などの園児が置かれている環境要因との関係について傾向を明らかにするものである。

遊びの経験を園の所在地である市部と郡部の2群で比較すると、平均値は「非運動遊びの経験」、「手具・用具を使わない遊びの経験」は市部が郡部より高く、有意差がみられた($P<0.01$)。また、「自然を利用した遊びの経験」「テレビ視聴経験」は郡部が市部を上回り有意差がみられた($P<0.001$)。他の5尺度には市部、郡部の差はみられなかった。(表2)

遊びの経験を園の種別で比較すると、平均値は「非運動遊びの経験」「手具・用具を使わない遊びの経験」は幼稚園が保育園より高く、有意差がみられた($P<0.05$)。また、「自然を利用した遊びの経験」「テレビ視聴経験」は保育園が幼稚園より高く有意な差があった($P<0.001$)。他の5尺度には園の種別による差はみられなかった。(表2)

遊びの経験を園の設置主体別に比較すると、平均値は「非運動遊びの経験」「リズム運動遊びの経験」は私立が公立より高く、有意差がみられた($P<0.01$)。「自然を利用した遊びの経験」は公立が私立より高く、有意差がみられた($P<0.001$)。他の6尺度には設置主体別の差はみられなかった。(表2)

表2 遊びの経験の平均値 (I)

因子	遊びの尺度	N	全 体		市 部 平 均	保 育 園 平 均	公 立 平 均
			X	S.D.	郡 部 平 均	幼 稚 園 平 均	私 立 平 均
					t値有意確率	t値有意確率	t値有意確率
1	手具・用具を使った遊び	395	2.85	(0.81)	2.91(0.85)	2.85(0.81)	2.87(0.79)
					2.82(0.80)	2.87(0.82)	2.83(0.87)
					1.06	0.18	0.45
2	非運動遊び	403	4.06	(0.51)	4.17(0.51)	4.00(0.51)	4.01(0.51)
					3.99(0.51)	4.13(0.51)	4.17(0.51)
					3.27**	2.55*	2.91**
3	手具・用具を使わない遊び	391	3.11	(0.69)	3.22(0.69)	3.04(0.69)	3.10(0.70)
					3.03(0.69)	3.19(0.69)	3.13(0.69)
					2.60**	2.15*	0.41
4	固定・大型遊具	399	3.98	(0.66)	3.97(0.70)	3.97(0.65)	4.01(0.64)
					3.98(0.64)	3.99(0.68)	3.91(0.71)
					0.09	0.22	1.24
5	自然を利用した遊び	403	4.10	(0.67)	3.74(0.69)	4.38(0.50)	4.27(0.58)
					4.30(0.58)	3.76(0.71)	3.73(0.72)
					8.35***	9.88***	7.27***
6	乗り物遊び	406	1.61	(0.63)	1.61(0.67)	1.62(0.60)	1.60(0.58)
					1.60(0.60)	1.61(0.67)	1.62(0.75)
					0.18	0.38	0.21
7	リズム運動遊び	409	3.98	(0.84)	4.07(0.84)	3.92(0.86)	3.90(0.86)
					3.91(0.84)	4.04(0.82)	4.15(0.78)
					1.84	1.43	2.86**
8	ヒーローごっこ	411	3.68	(1.17)	3.72(1.22)	3.66(1.14)	3.64(1.15)
					3.63(1.15)	3.71(1.23)	3.75(1.24)
					0.70	0.43	0.85
9	テレビ視聴	413	2.16	(1.18)	1.88(1.11)	2.43(1.19)	2.19(1.14)
					2.34(1.18)	1.85(1.08)	2.11(1.27)
					3.90***	5.14***	0.63

(*** $P<0.001$ ** $P<0.01$ * $P<0.05$)

遊びの経験を園の規模別に比較すると、有意差のあったものは2尺度で、「自然を利用した遊びの経験」は50名未満と規模が小さくなるほど高い数値を示し有意差がみられた ($P<0.001$)。また「乗り物遊びの経験」は規模の大小に関かわらず、全体的に平均値が1.52~1.80と否定的な傾向を示しているが、その中でも50名未満の小規模園が100名以上の大規模園に比べれば平均値は高く、有意差がみられた ($P<0.01$)。(表3)

表3 遊びの経験の平均値 (II)

因子	遊びの経験	50名未満平均 50~100名未満平均 100名以上平均		年少児クラス平均 年中児クラス平均 年長児クラス平均 混合クラス平均 未満児クラス平均		20~30才代平均 40~50才代平均		なし平均 あり平均	
		F値	有意確率	F値	有意確率	t値	有意確率	t値	有意確率
1	手具・用具を使った遊び	2.87(0.78) 2.91(0.80) 2.78(0.84)		2.31(0.65) 2.84(0.69) 3.41(0.71) 3.03(0.67) 1.50(0.00)		2.82(0.86) 2.91(0.75)		2.82(0.81) 2.90(0.84)	
		0.89		41.57***		1.07		0.94	
2	非運動遊び	3.98(0.44) 4.06(0.48) 4.12(0.57)		4.02(0.53) 4.15(0.51) 4.06(0.49) 3.91(0.43) 3.98(0.00)		4.11(0.52) 4.01(0.49)		4.07(0.53) 4.10(0.49)	
		2.48		1.55		1.85		0.70	
3	手具・用具を使わない遊び	3.07(0.72) 3.12(0.71) 3.11(0.67)		2.83(0.69) 3.12(0.69) 3.37(0.62) 3.15(0.58) 3.00(0.00)		3.09(0.69) 3.13(0.70)		3.05(0.72) 3.21(0.66)	
		0.17		10.58***		0.63		2.22*	
4	固定・大型遊具	4.08(0.64) 3.96(0.64) 3.92(0.69) 1.81		3.93(0.63) 4.03(0.63) 3.96(0.71) 4.05(0.68) 3.33(0.00) 0.70		3.94(0.70) 4.04(0.60) 1.57		3.93(0.67) 4.09(0.66) 2.35*	
5	自然を利用した遊び	4.35(0.54) 4.20(0.62) 3.83(0.72)		4.03(0.73) 4.08(0.65) 4.16(0.65) 4.30(0.56) 4.00(0.00)		4.01(0.72) 4.23(0.59)		3.94(0.69) 4.36(0.59)	
		22.55***		1.04		3.26**		6.34***	
6	乗り物遊び	1.80(0.64) 1.52(0.55) 1.56(0.68)		1.60(0.58) 1.59(0.62) 1.59(0.68) 1.66(0.53) 2.33(0.00)		1.56(0.66) 1.66(0.59)		1.58(0.66) 1.67(0.61)	
		6.77**		0.41		1.59		1.27	
7	リズム運動遊び	4.01(0.84) 3.89(0.84) 4.04(0.84)		4.12(0.80) 3.91(0.86) 3.87(0.82) 4.05(1.02) 4.00(0.00)		4.03(0.81) 3.91(0.89)		3.94(0.84) 4.07(0.87)	
		1.34		1.74		1.36		1.48	
8	ヒーローごっこ	3.69(1.07) 3.58(1.16) 3.78(1.24)		4.02(1.10) 3.97(1.10) 3.07(1.06) 3.28(1.15) 5.00(0.00)		3.81(1.16) 3.52(1.18)		3.72(1.18) 3.69(1.17)	
		1.21		16.21***		2.45*		0.19	
9	テレビ視聴	2.38(1.15) 2.16(1.15) 2.04(1.20)		2.29(1.16) 2.19(1.25) 1.97(1.07) 2.20(1.03) 4.00(0.00)		2.13(1.24) 2.19(1.08)		2.10(1.25) 2.26(1.09)	
		2.65		1.92		0.51		1.34	

(*** $P<0.001$ ** $P<0.01$ * $P<0.05$)

遊びの経験を発育段階によるクラス別に比較すると、平均値は「手具・用具を使った遊びの経験」「手具・用具を使わない遊びの経験」において有意差がみられ、いずれも年長クラスの方が年中、年少クラスを上回り高くなっている（ $P<0.001$ ）。「ヒーローごっこの経験」は逆に年齢が小さくなるほど高く、年少クラスの平均値が4.02と一番高くなっている（ $P<0.001$ ）。他の7尺度は発育段階によるクラス別に差はみられなかった。（表3）

遊びの経験を担当保育者の年齢別に比較すると、20歳代～60歳代まで5段階の設問になっているが、60歳代は0名あったので、20～30歳代および40～50歳代の2群で分析を行った。その結果「自然を利用した遊びの経験」の平均値は、保育者の年齢が40～50歳代が、20～30歳代より高くなっている。（ $P<0.01$ ）。逆に「ヒーローごっこ遊びの経験」は20～30歳代の方が、40～50歳代より高くなっている（ $P<0.05$ ）。他の7尺度は保育者の年齢の違いによる有意差は認められなかった。（表3）

遊びの経験を縦割り保育の実施頻度により5段階で回答を得たが、実施していない群と実施回数に差はあっても何等かな形で実施している群の2群で分析を行った。結果は「ヒーローごっこ遊びの経験」以外は全て実施している群の方が平均値が高かった。有意差が認められたのは「手具・用具を使わない遊びの経験」および「固定・大型遊具の経験」（ $P<0.05$ ）、「自然を利用した遊びの経験」（ $P<0.001$ ）であった。（表3）

以上4月から9月までの6ヵ月間の遊びの様子を、設定、自由などの遊びの形態は問わず、保育者の日々の観察をととした実感頻度で、園児遊びの経験を明らかにすることができた。

3. 遊びにおける基本的な運動の経験と不足

QⅢの保育者からみた園児の基本的な運動経験についての実感頻度と不足感は、QⅡの遊びの経験と同様にQⅠの属性による傾向の把握を容易にするために因子分析を実施した。

Q.34～57の24項目を運動の要素に着目し、最も解釈のし易かった12因子構造とした。ただし、「ぶら下がる」の項目は、因子負荷量からみると「全力で走る」と同じ第7因子にはいるのであるが、運動学的見地からは異質な項目と解釈されるので、「ぶら下がる」は、負荷（体重）を支える運動と同じと考えて第一の因子に含めて結果の処理をした。（表4）

第一の因子は「41. 重い物を持ち上げる」「42. 重い物を持って歩く」の2項目が0.80以上の因子負荷量を示し、ここに前述の「54. ぶら下がる」を加えて3項目を「持つぶら下がる経験」と命名した。

第二因子は、「50. 重い物を全力で押す」「51. 重い物を全力で引く」の2項目が0.80以上の高い因子負荷量を示した。これらを「押す・引く経験」と命名した。

第三の因子は、「45. 静止しているボールを打つ」「46. 投げたり蹴ったりしているボールを打つ」「47. 思いきりものを蹴る」の3項目が0.50以上の因子負荷量を示した。これらを「打つ・蹴る経験」と命名した。

第四の因子は、「52. 全力でものを投げる」「53. 投げたものを受ける」の2項目が0.75以上の因子負荷量を示した。これらを「投げ・受け経験」と命名した。

第五の因子は、「56. 水中を歩く」「57. 水中に潜る・泳ぐ」の2項目が0.80以上の因子負荷量を示した。これらを「水中運動経験」と命名した。

第六の因子は、「38. 思いきり遠くまで跳ぶ（幅）」「39. 思いきり高く跳ぶ（高さ）」「40. 障害を全力で跳び越す」の3項目が0.50以上の因子負荷量を示した。これらを「跳ぶ経験」と命名した。

第七の因子は、「43. 身長より高い所へよじ登る」「44. 身長より高い所より跳び降りる」の

表 4 基本的な運動の経験評価 (因子分析: 回転後の因子負荷量 (直交回転) バリマックス法)

	No.	変数名 (質問項目)	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6	因子7	因子8	因子9	因子10	因子11	因子12
持つ ぶら 下がる	Q41	重い物を持ち上げる	.8218	-.2282	-.0616	-.1638	.0115	-.2000	-.1588	-.0949	.1117	-.0866	-.0950	.0347
	Q42	重い物をもって歩く	.8613	-.2713	-.0707	-.1038	.0434	-.1172	-.0999	-.0789	.0246	-.0662	-.1059	.0584
	Q54	ぶら下がる	.3208	.0189	-.1979	-.0381	.1568	.0263	-.2424	-.1146	.2109	-.7140	.0265	.0385
押す 引く	Q50	重い物を全力で押す	.2652	-.8181	-.1571	-.1808	.0357	-.1312	-.1472	-.0410	.1589	-.0204	-.1320	.0712
	Q51	重い物を全力で引く	.2708	-.8433	-.1622	-.1473	.0610	-.0959	-.0933	-.0437	.1658	-.1134	-.0483	.0342
打つ 蹴る	Q45	静止しているボールを打つ	.0480	-.2329	-.8446	-.0928	.0229	-.1554	-.1134	-.0463	-.0032	-.0823	-.1031	-.0444
	Q46	投げたり蹴ったりしたボールを打つ	.0723	-.0911	-.8120	-.2670	.1287	-.0900	-.0934	-.1422	.0895	-.0316	-.1097	.0673
	Q47	思いつきものを蹴る	.2386	-.0726	-.5066	-.4065	.1541	.0153	-.0430	.0359	.3789	-.1280	-.1426	.0723
投げ 受け	Q52	全力でものを投げる	.1862	-.2971	-.1504	-.7780	.0904	-.1516	-.1240	-.0217	.1269	-.1136	-.0782	.0729
	Q53	投げたものを受ける	.1141	-.1064	-.2467	-.8285	.0991	-.1171	-.1311	-.1127	.1163	-.0672	-.0551	.0624
水中 運動	Q56	水中を歩く	.0067	-.0792	-.0130	-.0317	.8888	-.0644	-.0079	-.0739	.0333	-.1580	-.0423	.1713
	Q57	水中に潜る・泳ぐ	.0503	-.0120	-.1285	-.1267	.8917	.0067	-.0781	-.1783	.0219	-.0237	-.0647	-.0235
跳ぶ	Q38	思いつき遠くまで跳ぶ (幅)	.2501	-.0652	-.1623	-.1231	-.1146	-.5198	-.3005	-.0546	.2495	-.0772	-.4359	.0610
	Q39	思いつき高く跳ぶ (高さ)	.2925	-.1993	-.1389	-.0873	-.0589	-.5945	-.1741	-.0016	.2649	-.1343	-.2670	.0428
	Q40	障害物を全力で跳び越す	.3441	-.1739	-.1996	-.2233	.1544	-.6939	-.0921	-.1350	-.0194	-.1525	-.0796	.0298
登る 跳び降 りる	Q43	身長より高い所へよじ登る	.2211	-.2030	-.0518	-.2436	.0900	.0413	-.7279	-.0170	-.0563	-.2663	-.1337	-.0024
	Q44	身長より高い所から跳びおりる	.1041	-.1000	-.1509	-.0663	.0418	-.2133	-.8488	-.0974	.1081	-.0014	-.0275	.0089
歩く	Q34	1時間以上歩く	.0451	.0494	-.0911	-.0464	.2043	-.0262	-.1117	-.8689	-.0111	-.0049	-.0822	-.0651
	Q35	大股で歩く	.1719	-.2151	-.0744	-.0932	.0917	-.1171	.0142	-.7463	.1039	-.1685	-.2162	.1449
這う 転がる	Q48	はうなどよつばいで移動する	.0871	-.2704	-.0618	-.1632	.0369	-.1111	-.0472	-.0433	.8515	-.1042	-.0358	.0889
	Q49	スピーディーに転がる	.0256	-.3962	-.2440	-.2718	.1099	-.4470	-.1918	-.1481	.3737	.0185	.1067	.1181
走る	Q36	全力で走る	-.0523	-.2435	-.0008	-.2338	.1842	-.3684	-.0184	-.0774	.0037	-.6860	-.1378	.1729
続けて 走る	Q37	10分以上続けて走る	.1428	-.1208	-.1715	-.0863	.1299	-.1214	-.0710	-.2170	.0123	-.0421	-.8495	-.0062
リズム 運動	Q55	音楽に合わせてリズムカルに動く	.0563	-.0605	-.0154	-.0714	.0974	-.0397	-.0056	-.0135	.0684	-.0705	-.0023	.9744
因子負荷量2乗和			2.1709	2.1620	2.0462	1.9621	1.8496	1.6851	1.6230	1.5260	1.3212	1.2373	1.1918	1.0961
寄 与 率 (%)			9.0454	9.0082	8.5260	8.1756	7.7067	7.0213	6.7627	6.3583	5.5049	5.1553	4.9660	4.5673
累 積 寄 与 率 (%)			9.0454	18.0537	26.5797	34.7553	42.4620	49.4833	56.2460	62.6042	68.1091	73.2645	78.2305	82.7977

二項目が0.70以上の因子負荷量を示した。これらを「登る・跳び降りる経験」と命名した。

第八の因子は、「34. 1時間以上歩く」「35. 大股で歩く」の二項目が0.70以上の因子負荷量を示した。これらを「歩く経験」と命名した。

第九の因子は、「48. 這うなどよつばいで移動する」「49. スピーディーに転がる」の2項目が0.40以上の因子負荷量を示した。これらを「這う・転がる経験」と命名した。

第十因子は、「36. 全力で走る」の一項目で0.60以上の因子負荷量を示した。これを「走る経験」と命名した。

第十一因子は、「37. 10分以上続けて走る」一項目で0.80以上の因子負荷量を示した。これを「続けて走る経験」と命名した。

第十二因子は、「55. 音楽に合わせてリズムカルに動く」の一項目で、0.90以上の因子負荷量を示した。これを「リズム運動経験」と命名した。

以上の12因子を抽出した。また、Q.58～81の基本的な運動の不足感については、基本的な運動経験と同様に因子分析を行ったが、質問項目が両者とも同様であることからほぼ同じ因子構造になった。そこで、基本的な運動の経験についての実感頻度と不足感は同じ尺度を用い12の下位尺度に分けて分析を行った。ただし、58～81の基本的な運動の不足感は「〇〇経験」と命名した部分を「〇〇不足」と命名して区別した。

園児の遊びを運動要素に着目してみると、運動の経験と不足について保育者は、以下のとおり

評価していることが明らかになった。ただし、保育者が園児の運動について不足していると感じても、不足しているから必要であると考え場合と、不足していても幼児の段階では必ずしも必要であるとは思わない場合とが考えられる。本調査では質問紙にその点を明確にしていなかったため、いずれにも解釈できる。幼児の運動のねらいは、体力の向上に置くのではなく、多様な運動の経験が大切であるとすれば、多くの場合、不足感＝必要性和読みとつても支障はないように思われる。

基本的な運動の経験についての12の尺度の平均値、標準偏差は表5の通りであった。平均値が3.00以上の肯定的結果が得られた尺度は、平均値の高い順に「リズム運動経験」(4.03)、「水中運動経験」(3.86)、「走る経験」(3.56)、「登る・跳び降りる経験」(4.14)の4尺度であり他の8尺度は平均値が3.00未満の否定的傾向であった。最も平均値が低い尺度は、「続けて走る経験」であった。これは幼児の運動発達には適時性があり、「心臓や肺の機能は未分化で十分でない⁸⁾」ので、幼児の段階では、続けて走ることは余り行われていないことを示していると思われる。

しかし、小林らによれば、「幼児の筋肉、呼吸循環機能は、持久的な運動に適した生理的なメカニズムをもっている。」⁹⁾としており、大人が過大な負荷をかけて行わせることは、疲れを知らずに動き続ける子どもにストッパーがきかなくなり問題である。幼児が1~2キロの距離を続けて走ること自体に問題があるのではなく、自らの欲求に基づいて喜んで走っているかどうか行い方が肝心なのであると指摘している。

一方、基本的な運動の不足感についての平均値、標準偏差は表7の通りであった。前述の基本的な運動の経験の結果と拮抗するであろうと予測したが、その通りの結果が得られた。平均値が、3.00以上の肯定的な値を示した尺度は、平均値の高い順に「跳ぶ不足」(3.32)、「這う・転がる不足」(3.22)、「投げ・受け不足」(3.21)、「押す・引く不足」(3.21)、「打つ・蹴る不足」(3.21)、「歩く不足」(3.10)、「続けて走る不足」(3.07)、「持つ・ぶら下がる不足」(3.04)であった。これらの運動は保育者からみて不足していると思われる運動なのである。

「歩く不足」の尺度の平均値は3.10と肯定的な結果であったのは、歩く運動は人間の最も基本的な運動ではあるが、この尺度に含まれる項目が「1時間以上歩く」「大股で歩く」の2項目であることから、同じ歩く運動でも、運動の持続時間と歩幅を広くした変化させた歩き方をまとめた尺度になっており、普通に歩く運動を一日に合計1時間くらいは歩く経験をしているという解釈をした回答者は少なかったものと推察できる。この点は、質問項目の不明確さが指摘されるところである。

平均値が3.00未満の否定的な値を示した尺度は、「水中運動の不足」(2.44)、「リズム運動の不足」(2.53)、「走る不足」(2.86)、「登る・跳び降りる不足」(2.97)であった。これらは保育者からみて園児がいろいろな遊びを通して十分に経験している運動とみることができよう。

4. 基本的な運動の経験と不足の属性による傾向

園児の遊びの中に含まれる運動要素に着目して、基本的な運動をどの程度経験あるいは不足しているか、保育者の目からみた実感頻度を、7項目の属性により明らかにすることを試みた。

基本的な運動の経験の平均値を園の所在地である市部と郡部で比較すると、「跳ぶ経験」($p < 0.01$)「押す・引く経験」($p < 0.01$)、「持つ・ぶら下がる経験」($p < 0.05$)の3尺度は、市部が郡部より高く有意差がみられた。しかし平均値は3.00未満と低く市部も郡部も十分に経験している運動ではないことがわかる。また、「歩く経験」「水中運動の経験」は、郡部の方が市

部を上回り、有意差があった ($P<0.001$)。水中運動の平均値は4.07と高く、郡部の園ではよく行われていることがわかった。(表5)

表5 基本的な運動の経験の平均値 (I)

因子	基本的な運動の経験	全 体			市 部 平 均	保 育 園 平 均	公 立 平 均
		N	M	S.D.	郡 部 平 均 t値有意確率	幼 稚 園 平 均 t値有意確率	私 立 平 均 t値有意確率
1	歩く経験	409	2.46	(0.96)	1.99(0.86) 2.72(0.92) 7.95***	2.80(0.90) 2.04(0.88)	2.64(0.93) 2.06(0.92)
2	走る経験	411	3.56	(1.06)	3.69(1.07) 3.48(1.05) 1.83	3.48(1.07) 3.68(1.02) 1.89	3.53(1.05) 3.68(1.04) 1.32
3	続けて走る経験	412	1.81	(1.02)	1.78(0.99) 1.82(1.03) 0.31	1.83(1.02) 1.79(1.03) 0.33	1.83(1.06) 1.77(0.94) 0.56
4	跳ぶ経験	408	2.21	(0.82)	2.37(0.84) 2.12(0.81) 2.92**	2.11(0.82) 2.35(0.81) 2.94**	2.17(0.82) 2.33(0.83) 1.78
5	這う転がる経験	407	2.61	(0.89)	2.67(0.88) 2.56(0.90) 1.23	2.61(0.92) 2.62(0.86) 0.29	2.58(0.89) 2.65(0.90) 0.65
6	押す引く経験	408	2.41	(0.97)	2.57(1.00) 2.31(0.96) 2.62**	2.33(0.95) 2.50(1.00) 1.69	2.32(0.97) 2.60(0.98) 2.63**
7	持つぶら下がる経験	408	2.70	(0.86)	2.83(0.91) 2.62(0.83) 2.29*	2.61(0.83) 2.80(0.88) 2.22*	2.65(0.83) 2.79(0.90) 1.48
8	投げ受け経験	406	2.70	(0.96)	2.80(0.96) 2.64(0.97) 1.56	2.67(0.96) 2.74(0.96) 0.70	2.65(0.95) 2.81(0.99) 1.47
9	打つ蹴る経験	405	2.47	(0.92)	2.48(0.91) 2.47(0.93) 0.11	2.51(0.94) 2.42(0.90) 0.97	2.49(0.93) 2.41(0.92) 0.83
10	登る跳び降り経験	412	3.14	(1.03)	3.22(1.00) 3.08(1.05) 1.36	3.04(1.04) 3.26(1.01) 2.18*	3.18(1.02) 3.05(1.06) 1.22
11	リズム運動経験	411	4.03	(0.83)	4.17(0.79) 3.94(0.84) 2.81	3.97(0.82) 4.12(0.83) 1.84	3.96(0.84) 4.21(0.77) 3.00**
12	水中運動経験	410	3.86	(1.03)	3.49(1.03) 4.07(0.97) 5.59***	4.10(0.96) 3.56(1.03) 5.47***	3.98(1.03) 3.59(0.99) 3.61***

(*** $P<0.001$ ** $P<0.01$ * $P<0.05$)

一方、運動の不足感については、「跳ぶ不足」は郡部が市部より ($P<0.05$)、「水中運動不足」は市部が郡部より ($P<0.001$) 高く有意差がみられた。ただし、各尺度の平均値は3.39から2.25の値を示し、保育者が園児にとって不足していると感じている度合いは、市部、郡部の双方とも低いことがわかった。(表7)

基本的な運動の経験を園の種別で比較すると、「歩く経験」「水中運動経験」の2尺度で保育園の方が幼稚園を上回り、有意差がみられた ($P<0.001$)。「跳ぶ経験」($P<0.01$)、「持つぶら下がる経験」「登る・跳び降りる」($P<0.05$)の3項目は、幼稚園の方が保育園を上回り有意差があった。(表5)

運動の不足感は、「続けて走る不足」は保育園の方が幼稚園より ($P<0.05$)、「水中運動不足」は幼稚園の方が保育園より ($P<0.001$) 高く、有意な差がみられた。(表7)

基本的な運動の経験を園の設置別で比較すると、「歩く経験」「水中運動経験」は公立の方が私立を上回っており、有意差がみられた ($P<0.001$)。「押す・引く経験」「リズム運動経験」は私立の方が公立より高くなっており、有意な差がみられた ($P<0.01$)。(表5)

運動の不足感は、「歩く不足」「水中運動不足」は私立の方が公立より高く、有意差がみられた ($P<0.05$)。「リズム運動不足」は公立の方が私立より高く、有意差があった ($P<0.01$)。(表7)

基本的な運動の経験を園の規模別で比較すると、「歩く経験」は園児数50名未満の小規模園ほど高く ($P<0.001$)、「水中運動経験」は園児数50名～100名未満の中規模園の方が100名以上の大規模園より高く ($P<0.05$)、逆に「持つ・ぶら下がる経験」は大規模園の方が中規模園より高く ($P<0.05$) 有意差がみられた。(表6)

運動の不足感は、「リズム運動不足」は50名～100名未満の中規模園が、100名以上の大規模園より高く、有意差があった ($P<0.05$)。「水中運動不足」は100名以上の大規模園が50名以下の小規模園より高く、有意差がみられた ($P<0.05$)。これら2尺度の平均値は2.41から2.71の範囲にあり、いずれも否定的傾向を示し不足感は低いとみられる。(表8)

基本的な運動の経験を発育段階によるクラス別の比較をすると、全て尺度において年長になるほど高くなっており、「歩く経験」「走る経験」「続けて走る経験」「跳ぶ経験」「持つ・ぶら下がる経験」「投げ・受け経験」「打つ・蹴る経験」「登る・跳び降りる経験」「水中運動経験」の9尺度で $p<0.001$ 、「押す・引く経験」では $P<0.05$ の有意差がみられた。「這う・転がる運動経験」「リズム運動経験」の2尺度は有意差はみられなかったが、「リズム運動」はクラス別の平均値にほとんど差がなく、年齢に関係なくどのクラスにおいてもよく行われている運動であることが裏づけられた。(表6)

運動の不足感は、「歩く不足」「跳ぶ不足」の2尺度は、年中児、年長児クラスが年少児クラスにくらべて高く、有意差があった ($P<0.01$)。「投げ・受け不足」は年中児が年長、年少児に比べて高く、有意差があった ($P<0.01$)。「走る不足」「続けて走る不足」は年中児クラスが年長児、年少児クラスに比べて高く、「押す・引く不足」は年長児クラスにいくほど高く、いずれも有意差がみられた ($P<0.05$)。(表8)

基本的な運動の経験を担当保育者の年齢別に比較すると、「歩く経験」では40～50才代が20～30才代より高く ($P<0.001$)、「押す・引く経験」 ($P<0.05$) 「リズム運動経験」 ($P<0.01$) の2尺度では20～30才代が40～50才代より高く、有意差があった。(表6)

運動の不足感は、「打つ・蹴る不足」は20～30才代が40～50才代より高く、園児にとって不足している ($P<0.05$) となっている。「打つ・蹴る不足」以外の11尺度は、保育者の年齢では有意差はなかった。(表8)

基本的な運動の経験を縦割り保育の実施頻度により、実施していない群と実施している群の2群で比較した。平均値は「歩く経験」「水中運動経験」 ($P<0.001$)、「投げ・受け経験」 ($P<0.05$) で縦割り保育を実施している群が施していない群を上回り、有意差があった。(表6)

運動の不足感は、「歩く不足」 ($P<0.05$) 「水中運動不足」 ($P<0.01$) は縦割り保育を実施していない群が実施している群より高く、有意差がみられた。しかし平均値は2.23～3.17の範囲にあり否定的な数値を示しているので、園児にとって不足している運動であるとはいえない。(表8)

表 6 基本的な運動の経験の平均値 (II)

基本的な運動の 因子 経験	50 名 未 満 平 均 50~100 名 未 満 平 均 100 名 以 上 平 均		年少児クラス平均 年中児クラス平均 年長児クラス平均 混合クラス平均 未満児クラス平均		20~30 才 代 平 均 40~50 才 代 平 均		な し 平 均 あ り 平 均	
	F 値	有意確率	F 値	有意確率	t 値	有意確率	t 値	有意確率
1 歩く経験	2.76(0.93) 2.52(0.90) 2.18(0.97)		2.25(0.95) 2.46(0.96) 2.62(0.92) 3.00(0.89) 1.00(0.00)		2.31(0.95) 2.67(0.94)		2.29(0.97) 2.71(0.92)	
2 走る経験	12.46*** 3.38(1.13) 3.60(1.04) 3.65(1.01)		4.76*** 3.23(1.11) 3.63(1.02) 3.90(0.96) 3.25(0.77) 3.00(0.00)		3.80*** 3.64(1.02) 3.47(1.10)		4.32*** 3.57(1.07) 3.60(1.05)	
3 続けて走る経験	2.16 1.90(1.11) 1.80(1.01) 1.76(0.97)		7.72*** 1.59(0.86) 1.70(0.98) 2.15(1.09) 1.75(1.22) 1.00(0.00)		1.62 1.78(1.02) 1.85(1.03)		0.33 1.76(0.98) 1.90(1.10)	
4 跳ぶ経験	0.64 2.20(0.89) 2.19(0.77) 2.24(0.83)		5.86*** 1.93(0.75) 2.27(0.81) 2.52(0.79) 1.90(0.76) 1.00(0.00)		0.65 2.27(0.84) 2.16(0.80)		1.28 2.24(0.81) 2.20(0.85)	
5 這う転がる経験	0.17 2.55(0.97) 2.74(0.80) 2.51(0.91)		10.79*** 2.45(0.91) 2.66(0.88) 2.72(0.84) 2.48(0.81) 2.00(0.00)		1.35 2.60(0.87) 2.62(0.90)		0.55 2.60(0.83) 2.67(0.96)	
6 押す引く経験	2.80 2.40(0.98) 2.34(0.95) 2.47(1.00)		2.00 2.16(0.98) 2.51(0.99) 2.51(0.89) 2.68(0.98) 1.00(0.00)		0.23 2.50(1.00) 2.28(0.92)		0.69 2.39(0.96) 2.44(1.02)	
7 持つぶら下がる 経験	0.65 2.64(0.86) 2.60(0.79) 2.83(0.89)		3.89** 2.42(0.87) 2.76(0.81) 2.95(0.81) 2.63(0.74) 1.00(0.00)		2.23* 2.77(0.90) 2.62(0.79)		0.55 2.76(0.90) 2.67(0.78)	
8 投げ受け経験	3.26* 2.74(0.99) 2.69(0.91) 2.67(1.00)		7.87*** 2.33(0.84) 2.63(0.94) 3.11(0.96) 2.95(0.72) 1.00(0.00)		1.71 2.70(0.95) 2.69(0.97)		1.03 2.62(0.96) 2.82(0.95)	
9 打つ蹴る経験	0.15 2.52(0.96) 2.50(0.85) 2.42(0.96)		13.25*** 2.04(0.81) 2.46(0.93) 2.88(0.83) 2.67(0.81) 1.67(0.00)		0.02 2.41(0.91) 2.55(0.94)		2.01* 2.45(0.92) 2.56(0.93)	
10 登る跳び降り経験	0.44 3.20(1.17) 3.12(0.88) 3.13(1.08)		16.05*** 2.83(0.98) 3.30(1.07) 3.35(0.95) 2.98(1.03) 1.00(0.00)		1.45 3.11(1.09) 3.19(0.95)		1.20 3.13(1.02) 3.22(1.05)	
11 リズム運動経験	0.20 3.96(0.85) 3.99(0.79) 4.12(0.84)		6.55*** 4.01(0.79) 4.02(0.78) 4.04(0.90) 4.10(0.83) 4.00(0.00)		0.84 4.13(0.81) 3.90(0.82)		0.81 4.06(0.80) 4.07(0.85)	
12 水中運動経験	1.57 3.93(0.95) 3.99(1.07) 3.67(1.01)		0.07 3.34(1.07) 3.98(0.94) 4.21(0.89) 4.40(0.54) 1.50(0.00)		2.84** 3.85(0.98) 3.89(1.08)		0.16 3.64(1.13) 4.22(0.78)	
	4.10*		17.55***		0.38		5.88***	

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

表7 基本的な運動の不足の平均値 (I)

因子	基本的な運動の不足	全 体			市 部 平 均	保 育 園 平 均	公 立 平 均
		N	M	S.D.	郡 部 平 均 t値有意確率	幼稚園平均 t値有意確率	私立平均 t値有意確率
1	歩く不足	408	3.10	(0.95)	3.18(1.02) 3.07(0.91) 1.11	3.06(0.90) 3.14(1.02) 0.77	3.01(0.94) 3.27(0.97) 2.48*
2	走る不足	408	2.86	(1.03)	2.89(0.99) 2.86(1.05) 0.29	2.80(1.07) 2.93(0.96) 1.23	2.82(1.03) 2.92(1.03) 0.87
3	続けて走る不足	403	3.07	(1.23)	3.00(1.23) 3.13(1.23) 1.00	3.20(1.22) 2.92(1.25) 2.23*	3.04(1.27) 3.14(1.18) 0.76
4	跳ぶ不足	400	3.32	(0.88)	3.21(0.83) 3.39(0.90) 2.01*	3.39(0.90) 3.24(0.85) 1.72	3.33(0.90) 3.30(0.84) 0.27
5	這う転がる不足	404	3.22	(0.85)	3.15(0.80) 3.27(0.87) 1.34	3.24(0.89) 3.20(0.80) 0.53	3.20(0.86) 3.26(0.84) 0.69
6	押す引く不足	404	3.21	(0.91)	3.15(0.88) 3.25(0.94) 1.06	3.27(0.90) 3.12(0.91) 1.65	3.21(0.89) 3.17(0.93) 0.49
7	持つぶら下がる不足	406	3.04	(0.79)	3.02(0.80) 3.06(0.79) 0.47	3.08(0.78) 2.99(0.80) 1.22	3.02(0.77) 3.08(0.82) 0.63
8	投げ受け不足	406	3.21	(0.91)	3.20(0.86) 3.22(0.94) 0.24	3.23(0.94) 3.20(0.88) 0.32	3.20(0.91) 3.23(0.90) 0.33
9	打つ蹴る不足	401	3.21	(0.90)	3.20(0.81) 3.21(0.95) 0.14	3.24(0.94) 3.19(0.84) 0.60	3.17(0.93) 3.31(0.83) 1.44
10	登る跳び降り不足	398	2.97	(0.97)	3.00(0.98) 2.97(0.96) 0.26	3.00(0.96) 2.95(0.97) 0.55	2.95(0.95) 3.02(1.01) 0.62
11	リズム運動不足	408	2.53	(1.12)	2.53(1.19) 2.54(1.08) 0.10	2.55(1.12) 2.51(1.13) 0.34	2.63(1.12) 2.30(1.10) 2.71**
12	水中運動不足	406	2.44	(1.12)	2.78(1.06) 2.25(1.12) 4.72***	2.22(1.14) 2.71(1.05) 4.44***	2.35(1.17) 2.63(1.01) 2.41*

(***P<0.001 **P<0.01 *P<0.05)

表 8 基本的な運動の不足の平均値 (II)

因子	基本的な運動の 不足	50 名 未 満 平 均 50~100 名 未 満 平 均 100 名 以 上 平 均	年少児クラス平均 年中児クラス平均 年長児クラス平均 混合クラス平均 未満児クラス平均	20~30 才 代 平 均 40~50 才 代 平 均	な し 平 均 あ り 平 均
		F 値 有意確率	F 値 有意確率	t 値 有意確率	t 値 有意確率
1	歩く不足	2.95(0.90) 3.15(0.93) 3.15(1.01)	2.91(0.96) 3.25(0.94) 3.11(0.91) 3.35(0.94) 1.00(0.00)	3.16(0.94) 3.00(0.96)	3.17(1.03) 2.96(0.85)
2	走る不足	1.74 2.81(1.08) 2.82(0.99) 2.95(1.01)	3.76** 2.95(0.91) 2.92(1.10) 2.68(1.01) 3.10(1.09) 1.00(0.00)	1.62 2.93(1.03) 2.77(1.03)	2.11* 2.83(1.00) 2.90(1.10)
3	続けて走る不足	0.88 2.97(1.29) 3.23(1.22) 2.99(1.21)	2.46* 2.86(1.21) 3.19(1.31) 3.12(1.08) 3.55(1.53) 1.00(0.00)	1.60 3.06(1.19) 3.08(1.30)	0.65 3.07(1.27) 3.03(1.20)
4	跳ぶ不足	1.88 3.25(0.86) 3.39(0.94) 3.32(0.82)	2.85* 3.17(0.91) 3.43(0.91) 3.36(0.76) 3.60(0.88) 1.00(0.00)	0.17 3.33(0.85) 3.31(0.91)	0.33 3.26(0.87) 3.38(0.86)
5	這う転がる不足	0.77 3.21(0.83) 3.18(0.87) 3.28(0.84)	3.84** 3.12(0.84) 3.27(0.85) 3.28(0.83) 3.29(0.82) 1.50(0.00)	0.30 3.22(0.79) 3.22(0.90)	1.32 3.19(0.84) 3.22(0.83)
6	押す引く不足	0.55 3.13(0.82) 3.31(0.92) 3.16(0.94)	1.85 3.05(0.93) 3.26(0.86) 3.34(0.91) 3.23(0.72) 1.00(0.00)	0.06 3.15(0.89) 3.28(0.92)	0.31 3.19(0.95) 3.19(0.85)
7	持つぶら下がる 不足	1.43 2.99(0.74) 3.11(0.77) 3.01(0.82)	3.27* 2.97(0.83) 3.09(0.80) 3.02(0.71) 3.27(0.73) 1.33(0.00)	1.35 3.04(0.81) 3.02(0.75)	0.03 3.01(0.81) 3.06(0.72)
8	投げ受け不足	0.88 3.21(0.93) 3.20(0.91) 3.22(0.91)	1.99 3.18(0.89) 3.29(0.90) 3.13(0.90) 3.70(0.95) 1.00(0.00)	0.20 3.28(0.90) 3.13(0.92)	0.68 3.18(0.92) 3.26(0.88)
9	打つ蹴る不足	0.02 3.16(0.97) 3.22(0.88) 3.23(0.87)	3.52* 3.16(0.91) 3.32(0.96) 3.15(0.80) 3.28(0.85) 1.00(0.00)	1.59 3.29(0.84) 3.10(0.96)	0.79 3.17(0.91) 3.20(0.87)
10	登る跳び降り不足	0.25 2.82(1.03) 2.97(0.90) 3.07(0.97)	2.27 3.09(0.97) 2.95(1.00) 2.86(0.90) 3.15(0.87) 1.00(0.00)	2.07* 3.03(0.96) 2.90(0.97)	0.28 2.97(0.98) 2.96(0.99)
11	リズム運動不足	2.00 2.44(1.05) 2.72(1.12) 2.41(1.14)	2.20 2.51(1.06) 2.57(1.13) 2.49(1.16) 2.80(1.21) 1.00(0.00)	1.35 2.47(1.15) 2.61(1.08)	0.18 2.46(1.12) 2.62(1.14)
12	水中運動不足	3.38* 2.24(1.04) 2.41(1.19) 2.60(1.07)	0.84 2.46(1.01) 2.54(1.14) 2.33(1.22) 2.35(1.10) 1.00(0.00)	1.17 2.52(1.10) 2.32(1.15)	1.34 2.56(1.14) 2.23(1.10)
		3.31*	1.03	1.81	2.80**

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

ま と め

本研究では、4月～9月半年間の保育園、幼稚園における「幼児の遊びの経験」と、遊びを運動要素から捉えた時に、「基本的な運動の経験と不足」について、保育者の実感頻度により明らかにしようとした。その結果以下のことが把握できた。

- 1) 遊びの経験は平均値の高い順に、①自然を利用した遊びの経験 ②非運動遊びの経験 ③固定・大型遊具による遊びの経験、④リズム運動遊びの経験 ⑤ヒーローごっこの経験 ⑥手具・用具を使わない遊びの経験 ⑦手具・用具を使った遊びの経験 ⑧テレビ視聴の経験 ⑨乗り物遊びの経験。
- 2) 遊びの経験を属性により傾向を把握した。属性により平均値が高く、有意な差がみられたものに○印をつけて示すと以下のとおりであった。

尺 度	属 性		1		2		3		4			5			6		7	
	市部	郡部	保育園	幼稚園	公立	私立	小規模	中規模	大規模	年少	年中	年長	2,30代	4,50代	なし	あり		
①自然を利用した遊びの経験		○	○		○		○							○		○		
②非運動遊びの経験	○			○		○												
③固定・大型遊具による遊びの経験																○		
④リズム運動遊びの経験						○												
⑤ヒーローごっこの経験										○			○					
⑥手具・用具を使わない遊びの経験	○			○								○				○		
⑦手具・用具を使った遊びの経験												○						
⑧テレビ視聴の経験		○	○															
⑨乗り物遊びの経験							○											

- 3) 基本の運動の経験尺度の平均値は、高い順に①リズム運動の経験 ②水中運動の経験 ③走る経験 ④登る・跳び降りる経験 ⑤持つ・ぶら下がる経験 ⑥投げ・受け経験⑦這う・転がる経験 ⑧打つ・蹴る経験 ⑨歩く経験 ⑩押す・引く経験 ⑪跳ぶ経験 ⑫続けて走る経験であった。
- 4) 基本の運動の経験を属性により傾向を把握した。属性により平均値が高く、有意な差のみられたものに○印をつけて示すと以下のとおりであった。

尺 度	属 性	1		2		3		4			5			6		7	
		市部	郡部	保育園	幼稚園	公立	私立	小規模	中規模	大規模	年少	年中	年長	2,30代	4,50代	なし	あり
①リズム運動の経験							○							○			
②水中運動の経験			○	○		○			○				○				○
③走る経験													○				
④登る・跳び降りる経験					○								○				
⑤持つ・ぶら下がる経験		○			○					○			○				
⑥投げ・受け経験													○				○
⑦這う・転がる経験																	
⑧打つ・蹴る経験													○				
⑨歩く経験			○	○		○		○					○		○		○
⑩押す・引く経験		○					○						○	○			
⑪跳ぶ経験		○			○								○				
⑫続けて走る経験													○				

5) 基本の運動の不足尺度の平均値は、高い順に①跳ぶ不足 ②這う・転がる不足 ③投げ受け不足 ④押す・引く不足 ⑤打つ・蹴る不足 ⑥歩く不足 ⑦続けて走る不足 ⑧持つ・ぶら下がる不足 ⑨登る・跳び降りる不足 ⑩走る不足 ⑪リズム運動不足 ⑫水中運動不足であった。

6) 基本の運動の不足を属性により傾向を把握した。属性により平均値が高く、有意な差のみられたものに○印をつけて示すと以下のとおりであった。

尺 度	属 性	1		2		3		4			5			6		7	
		市部	郡部	保育園	幼稚園	公立	私立	小規模	中規模	大規模	年少	年中	年長	2,30代	4,50代	なし	あり
①跳ぶ不足			○									○					
②這う転がる不足																	
③投げ受け不足												○					
④押す・引く不足													○				
⑤打つ・蹴る不足														○			
⑥歩く不足							○					○				○	
⑦続けて走る不足				○								○					
⑧持つ・ぶら下がる不足																	
⑨登る・跳び降りる不足																	
⑩走る不足											○						
⑪リズム運動不足						○			○								
⑫水中運動不足		○			○		○			○						○	

幼児の遊びは生活そのものであり、心身の発育発達と深く関わっている。それだけに幼児期の運動経験は、生活の多様な経験の一つとして重要な意義がある。調査にあたっては、遊びを運動要素に着目したが、遊びそのものは運動要素に分けて行われるものではない。あくまでも幼児の自発的な活動として行われる中で、運動が偏ることなく全身的に、総合的に行われるよう支えていくことが大切である。

<引用文献>

- 1) 松永 恵子「幼児の運動能力と遊びの関連について」：保母養成研究年報 2・3合併号 全国保母養協議会 1985年 P.77 P.82
- 2) 松永 恵子「幼児の運動遊びと運動量に関する研究」：保母養成研究年報 5号 全国保母養協議会 1987年 P.96
- 3) 吉岡 清香「幼児の生活リズムと遊びの関連性について」：保母養成研究年報 5号 全国保母養協議会 1987年 P.107
- 4) 前橋 明 岡崎 節子 本保 恭子「幼児の運動発達に影響を及ぼす諸要因について」保母養成研究年報 6号 全国保母養協議会 1988年 P.78
- 5) 仙田 満「子どもとあそび」岩波新書 1995年 P.166
- 6) 文部省「子育ての中の基礎体力づくり」第一法規 1979年 P.32
- 7) 勝部 篤美「幼児体育の理論と実際」杏林書院 1984年 P.84
- 8) 重田 為司 田中 敏隆「幼児の体育遊び」ひかりのくに 1967年 P.11
- 9) 小林 寛道「幼児の発達運動学」ミネルバ書房 1990年 P.252